

## 医療福祉相談のご案内

医療福祉相談部では患者さんやご家族の皆さまのさまざまな相談に対応しています。

### ①療養、治療中の生活相談

- ・精神的な苦痛
- ・家事、育児、介護などの家族関係
- ・職場、地域などの社会関係の調整



### ②退院支援

- ・転院先の調整
- ・施設入所
- ・介護保険などの在宅ケアサービスの情報整理、連携



### ③受診・受療の支援

- ・患者さん家族の社会背景に配慮、不安の軽減
- ・診療に必要な情報を医師や看護師等と共有

### ④お金の心配

- ・高額療養費、傷病手当、生活保護などの情報提供

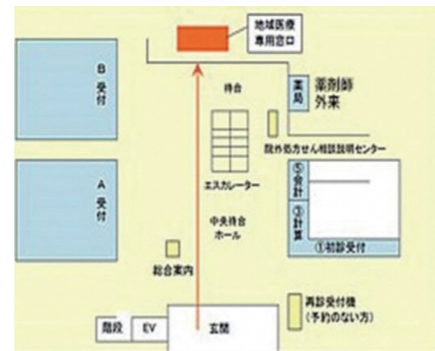
**相談受付時間**  
月～金(祝日、年末年始を除く)  
午前9時～午後5時

### ⑤地域活動

- ・岸和田市内外の医療機関、地域包括センター、市役所などと連携
- ・研修会や市民啓発の参加

### ⑥難病相談

- ・指定難病の申請案内
- ・介護サービス、障害サービスの利用
- ・お仕事に関する事など



### ⑦がん、緩和ケア相談

認定がん相談支援センターのがん相談員としても、積極的に対応しています。がんの治療、緩和ケアなどについて、外来・入院の方、または当院をかかりつけ医療機関とされていない方のご相談にも応じます。また、当院で治療されている患者さんに関してはお仕事の相談もハローワーク岸和田の相談員との協働体制で相談を承ります。こちらは事前予約制ですので、がん相談支援センターにお声がけください。その他、生活に関することでお困りの方は、お気軽にご相談ください。

市立岸和田市民病院 医療福祉相談部



今号は、大規模災害訓練や市民病院フェスタ、パルスフィールドアブレーションの紹介、医療福祉相談部のご案内を掲載しました。次号は、新たな特集を予定しております。当院は今後も患者さんを中心に、医師、看護師及びコメディカルが連携し、より良い医療を提供できるよう努めてまいります。引き続き「うらら」では当院の新しい動きや、特徴などをお知らせいたします。

# 市立岸和田市民病院だより うらら

第24号  
令和8年3月

【発行】  
市立岸和田市民病院  
広報委員会

## 特集 大規模災害訓練



### 当院は国指定「地域がん診療連携拠点病院」です

#### 【目次】

- P.2～3 ..... 大規模災害訓練
- P.4～5 ..... 病院フェスタ
- P.6～7 ..... パルスフィールドアブレーション
- P.8 ..... 医療福祉相談部  
編集後記

#### ～基本理念～

- ・市民の皆さんが安心して心のごもった良質な医療を受けられる病院をめざします。
- ・患者さん一人ひとりの権利と安全を確保し、絶えず向上心をもって皆さんに信頼されるよう努めます。

#### ～基本方針～

- ・市民の皆さんが安心して良質な医療を受けられるように高度・専門医療と救急医療を充実する。
- ・患者さんが医療の中心であることを忘れず、個人の知る権利と決定する権利を尊重する。
- ・患者さんと職員の安全を確保する。
- ・地域の中核病院として地域医療連携を推進する。
- ・職員の教育・研修を充実し、絶えず向上心を持って努力する。



温かい心をもって、  
良質で高度な  
医療を提供します。



泉州地方では、わたし達・おれ達という意味で、「うらら」や「おらら」が使われていました。いつまでも、わたし達・おれ達に愛される市民病院でありたいとの願いをこめて、「うらら」と名付けました。



市立岸和田市民病院  
ロゴマーク

このマークは岸和田市の頭文字「K」と「若葉」をモチーフに大空に飛び立つ鳥をイメージしています。「若葉」には若々しさや、健康、信頼関係。そして質の高い医療を温かい心で市民のみなさまに提供する心を表現しています。また飛び立つ「鳥」には地域医療の中核病院として、地域とともに発展していく姿を表現しています。

## みんなの命を守るために ～大規模災害訓練のご報告～

令和7年11月15日、当院にて「大規模災害訓練」を実施いたしましたので、その様子をご報告いたします。

### ■災害時の病院の役割

当院（市立岸和田市民病院）は、大地震などが発生した際、「市町村災害医療センター」として活動します。これは、岸和田市の皆さんの命を守るための拠点であり、より規模の大きな専門病院と協力して地域医療を支える役割を担います。

### ■命を救う「7つのルール」

混乱する現場で迷わず動くため、私たちは「CSCATTT」という災害医療の基本原則に従います。

1. 指揮と連携 (Command & Control) : リーダーを決め、指揮命令系統を確立する。
2. 安全 (Safety) : 患者さんと医療従事者の安全を守る。
3. 情報 (Communication) : 正確に情報を伝える。
4. 評価 (Assessment) : 災害状況や提供できる医療内容を正しく把握する。
5. トリアージ (Triage) : 治療の優先順位を決める。
6. 治療 (Treatment) : 一人でも多くの命を救うため、緊急の処置を最優先する。
7. 搬送 (Transport) : 必要な場合、他の医療機関へ搬送する。

### ■訓練の様子

今回の訓練は、「平日の午後5時30分に震度6弱の地震が発生した」という想定で行いました。医師、看護師、技師、事務員など総勢104名の職員に加え、患者さん役として大阪河崎リハビリテーション大学の学生さん30名にも協力していただきました。

#### ①本部の設置

病院3階の講堂に「災害対策本部」を立ち上げました。ここが司令塔です。病院全体を指揮し、災害状況の把握、病床・手術室の確保、専門病院への搬送の手配などを行います。

#### ②トリアージ

ロビーには、けがや症状の重さを判定する「トリアージエリア」を設置しました。ここには「赤（命に関わる）」「黄（治療が必要）」「緑（歩ける）」という色のエリアが用意されています。次々と搬送される患者さん（学生さんたち）を診察し、治療の優先順位を決めて、それぞれの色のエリアへ案内しました。

#### ③治療と搬送の決定

各エリアで、模擬検査（採血、レントゲン、CTなど）を行い、入院や手術が必要かどうかを判断しました。本部では、病床（ベッド）・手術室の空き状況を確認し、当院で治療するか、他の病院へ搬送するかを瞬時に決定して指示を出しました。

### ■最後に

今回の訓練の目標は、職員が「初動」を理解し、マニュアルが正しく機能するかを確認することでした。いつ起こるかわからない災害から皆さんの命を守るため、私たちはこれからも準備を続けていきます。



## 市民病院フェスタを開催しました!



令和7年11月2日(日)、市民病院の敷地内にて「市民病院フェスタ」を開催しました。市民の皆さまに病院をもっと身近に感じていただくため、たくさんの企画を用意し、笑顔に包まれた一日となりました。

### オープニングセレモニー

佐野英利市長と横見瀬院長の挨拶に続き、幼稚園児による元気いっぱいの鼓笛隊演奏でスタートしました。その後、岸和田市のイメージキャラクターのちきりくんも登場し、撮影会では行列ができるほど人気でした。



### 医療講演とリハビリ体操

整形外科の松下医師による「変形性膝関節症」についての講演では、保存療法から手術療法、PRP再生医療やロボット支援人工関節置換術まで幅広く紹介しました。講演後にはリハビリ体操も行われ、参加者と一緒に楽しく体を動かし、参加者の健康意識向上につながりました。



### 院内見学ツアー

院内見学ツアーでは普段は入れない病院の内部を見学しました。参加者の皆さんは特に手術室に強い関心を持っていました。



### 体験コーナー

体験コーナーでは「3D画像構築体験」や「エコー体験・顕微鏡で細胞観察」、「いきいき体操」、「あけ・敷すべり止めコースター作成」など体験型イベントを多数開催しました。また、子どもも大人も楽しめる企画としてキッズ白衣体験やスタンプラリー・クイズラリー、調剤体験、子どもタイムトライアル、岸和田市消防本部によるAED講習や救急車展示・消防なりきり体験を開催しました。



### 健康チェック・相談コーナー

健康チェック・相談コーナーでは血圧・身長・体重・BMIの測定や骨密度測定&栄養相談、歩行バランスチェック、物忘れチェック、お薬相談などを開催しました。どの企画も好評でした!



### 展示コーナー

展示コーナーでは最新の医療機器や、持ちやすい形状のお箸やスプーン・フォークなどの自助具を展示しました。



### キッチンカーも登場!

たこ焼きやフライドポテトなどのホットスナック、カレーやクレープ、本格ドリップコーヒーなど、どれも魅力的な食事でもとても楽しい時間を提供しました!



### エンディング(ロビーコンサート)

吹奏楽によるロビーコンサートが開催され、病院内に美しい音色が響き渡り、皆さまが演奏に夢中になっていました。



### さいごに

来場された皆さま、協力いただいた関係団体の皆さまに心より感謝いたします。来年はさらに充実した内容で開催予定です。どうぞお楽しみに!

## パルスフィールドアブレーションについて

2012年から当院循環器内科で使用していた血管造影装置(アンギオ装置)がメーカーによるサポート終了に伴い、2025年2月に新しい装置に変わりました。従来の血管造影室はシングルプレーン(1管球)でしたが、今回バイプレーン(2管球、2方向同時撮影が可能)の装置を導入しました(図1)。血管造影装置の更新に伴い、多くの関連機器も更新され、急性心筋梗塞や狭心症の治療における経皮的冠動脈形成術の精度も上がりました。

図1



岸和田市民病院の循環器血管造影室が新しくなりました

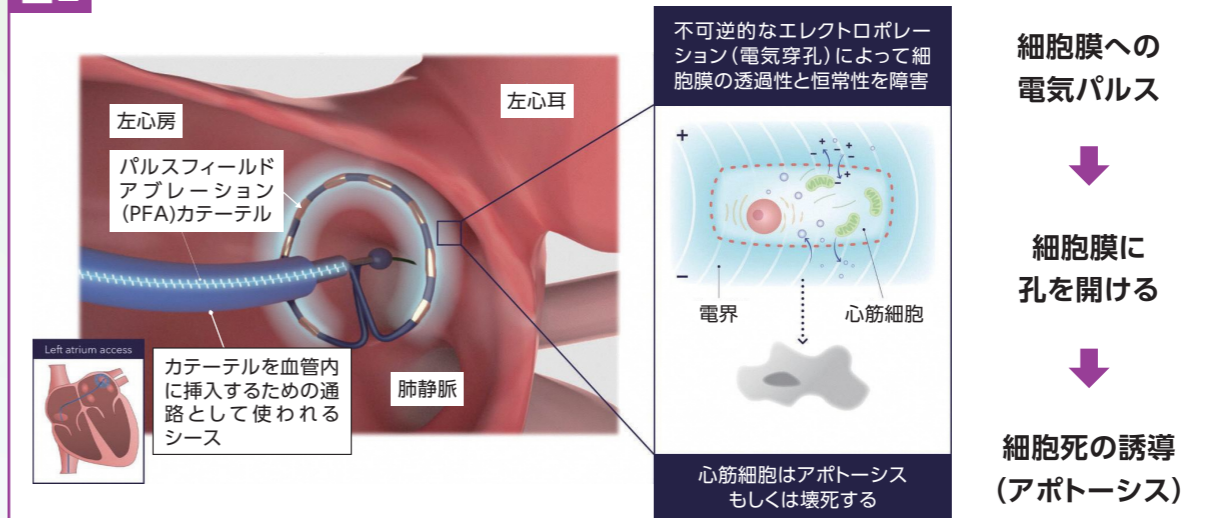
2025年2月19日～運用開始しました!

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療にも当院は精力的に取り組んでまいりましたが、こちらに対してもカテーテルの位置情報を取得する3Dマッピングシステムの更新も行い、以前に比べてさらに治療精度が上がっています。

カテーテルアブレーション治療の対象疾患として最も多いのは心房細動です。心房細動に対するアブレーションには様々な方法があり、高周波、冷凍凝固、ホットバルーン、レーザーがありますが、従来のアブレーションでは、心臓周囲への熱伝導による周辺組織の損傷や熱凝固による血栓症が問題となっていました。

2024年9月から熱を使わない新しいエネルギー源によるアブレーションとしてパルスフィールドアブレーション(PFA)が開発され、保険収載されました。PFAでは心筋細胞膜への電気パルスにより細胞膜に孔を開けて、細胞死(アポトーシス)を誘導します(図2)。

図2



Circulation 2023 May 9. Circulation.2023;147:1422-1432. DOI: 10.1161/CIRCULATIONAHA.123.063988

従来のアブレーションではアポトーシスではなくネクローシス(壊死)が主体で、心筋そのものの修復過程も異なります。一方、他の臓器は心筋細胞に比べてPFAに対する耐性が高いため心筋細胞を選択的にアブレーションすることができ、食道、大動脈、横隔膜神経などを傷害することなく安全にアブレーションができます(図3)。

図3

### パルスフィールドアブレーション(PFA)の利点

- 今までのアブレーションカテーテル治療より簡便に短時間で手技が終わる。
- 今までより熱伝導に起因する重篤な合併症(心タンポナーデ等)が減少する可能性がある。
- 熱凝固による血栓が生じないので脳梗塞合併症が減る可能性がある。
- 食道障害がない。 ● 横隔膜神経麻痺がない。 ● 肺静脈狭窄がない。
- 修復過程の違いから線維化が起こりにくいため心機能を悪化させにくいと考えられている。

当院でも2025年3月にPFAを導入しました。これにより、安全性が高まり、治療がより安全に実施可能になっただけでなく、治療時間も非常に短縮され、カテーテル検査室の入退室時間は90分となりました。入院期間は、発作性心房細動の場合は3泊4日であり、もちろん深鎮静での麻酔治療(眠った状態で治療)となりますので苦痛なく治療は終了します。ぜひ心房細動に対するカテーテルアブレーションを希望される患者さんがいらっしゃいましたらかかりつけの先生に紹介していただくか、当院を受診してください。

当院循環器内科は、今後も市民が安心して良質な医療を受けられるように高度専門医療と救急医療を充実していきますのでよろしくお願いいたします。